

鶴飼哲（うかい・さとし）

一橋大学大学院言語社会研究科特任教授。専門はフランス文学・思想、ポスト植民地文化論。著書に『応答する力』（岩波書店、二〇〇三年）など。訳書にジャック・デリダ『動物を追う、ゆえに私は（動物で）ある』（みすず書房、二〇一四年）など。

村上克尚（むらかみ・かつなお）

東京大学大学院総合文化研究科准教授。専門は日本の戦後文学。著書に『動物の声、他者の声——日本戦後文学の倫理』（新曜社、二〇一七年）。論文に『波及する戦争——目取真俊『眼の奥の森』を読むために』、『越境広場』二〇一七年（二月）、「沖繩」とともに生きるために——岡本恵徳『沖繩ノート』論』を読む』、『アジア太平洋研究』二〇一六年（一月）など。

中井亜佐子（なかい・あさこ）

一橋大学言語社会研究科教授。専門は英文学、批評理論。著書に『他者の自伝——ポストコロニアル文学を読む』（研究社、二〇〇七年）など。訳書にウェンディ・ブラウン『いかにして民主主義は失われていくのか——新自由主義の

見えざる攻撃』（みすず書房、二〇一七年）など。

呉世宗（お・せじょん）

琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科准教授。専門は在日朝鮮人文学。著書に『リズムと抒情の詩学——金時鐘と「短歌的抒情の否定」』（生活書院、二〇一〇年）、『沖繩と朝鮮のはざま——朝鮮人の〈可視化／不可視化〉をめぐる歴史と語り』（明石書店、二〇一九年）など。